

令和3年度 墨田区立第三寺島幼稚園 経営報告書

令和4年3月14日

幼稚園目標	人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、知性・感性に富み、人間性豊かな幼児を育成する。 ◎元氣によく遊ぶ子ども ○やさしい心をもった子ども ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども
目指す幼稚園像	子どもが主役の幼稚園
目指す園児像	◎元氣によく遊ぶ子ども ・意欲的に遊び、五感で感じ取り、自分なりに表現することを楽しむ。 ・明るくのびのびと充実感を味わうよう、遊びの中で十分に体を動かす。 ・健康な生活リズム・食の習慣を身に付け、暑さ寒さに負けず進んで戸外で遊ぶ。 ・危険なことや災害について知り、安全に気を付けて行動する。 ○やさしい心をもった子ども ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ ・自然や身近な動植物に親しみ、命あるものを大切にし、いたわる気持ちをもつ。 ・高齢者や地域の方達、異年齢の子ども達に親しみをもつ。 ・様々な国の文化に触れ親しみをもつ。 ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども ・遊びや行事等を通して、自分なりの目標をもってやり抜き、熱中する体験を積む。 ・試行錯誤や協同することを積み重ね、友だちや他の人とのかかわりを楽しみ達成感を味わう。 ・「なぜ、どうして」など、興味や好奇心をもち、少しずつ自分の世界を広げていく。
目指す教師像	○愛情をもって子どもの思いや願いを受け止め、自立心や意欲を育てるよう、認め勇気づける指導を進める。 ○幼児理解に努め、一人一人の興味関心を大切にしながら、日々の教育活動・環境づくりを振り返り、研究・研鑽に努める。 ○園の教育活動を進んで知らせ、保護者と共に、児童の成長を喜び合う。幼稚園が親子の温かい育ちの場となるよう、親身に接し相談や支援に努める。大人も相互に学び合い成長する。 ○保護者・地域・小中学校と連携し、豊かなかかわりや具体的な体験の場を創り出す。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
保育活動等	園は、子供の主体的な活動を促す教育の実施に努めているか。	A	○幼児の関心意欲を高める環境づくりや、保育活動を創り出す。 ・幼児の発達に段階に応じた課題の設定をし、個別と一斉の指導のバランスをとりながら、保育活動を進める。 ・計画的に時に柔軟に社会の状況や園児の実態に合わせて、環境や課題を設定する。 ・新しい生活様式を踏まえ、行事のねらいや内容を再考、工夫、改善し、幼児の主体性が引き出されるよう指導の質を高めていく。	A	A
	園は、特別な支援を必要とする幼児に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	○全教職員の共通理解を基に、特別支援教育体制を整え充実させる。 ○巡回相談員を招き、ケース会議を行い、個に応じた支援法を工夫する。 ※保護者との面談、関係機関との連携・就園・就学相談の充実併設小学校特別支援教室との連携	B	A
	園は、幼児の将来の自立に向けた保育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	○幼保小の連携を進め、スタートカリキュラムに対応した、アプローチプログラムを進めていく。 保護者の日常的な相談を進め、子育てへの不安に寄り添う。	B	A

様式 3

			早い時期から、就学相談や進学への丁寧な対応に努める。 幼小の連携をさらに進め、小学校への関心・意欲・態度を育てて行く。		
	園は、教員の指導力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	○園内研究・区幼研などで、具体的な保育実践を通して研修研究を進める。○J Tや園内研修を通し教師の指導力の向上を組織的に図る。特に若手の育成のため、経験者とチームになって実践する。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	個別と一斉の指導のバランスをとりながら、計画的に時には柔軟に園児の実態に合わせて教育活動を実施している。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	園は、幼児の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	○教職員は幼児のよさに目を向け、個性を尊重する対応に徹する。園児には友達のよさに目を向けさせる。	A	A
	園は、幼児が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	○「早寝、早起き、朝ご飯」の励行を進める。 ○元気なあいさつができるよう目指す。 言語環境を整え、教師は正しい言葉を使う。 ○徒歩登園を推奨し、歩く習慣を身に付け体力向上を図る ○遊びの中で集団のルールや善悪の判断を身に付けさせる。また、自分の気持ちを調整することを学ぶ。 ○園内異年齢学級、三寺小、高齢者と手紙やICT機器を活用した間接的な交流を図り、心の育ちにつなげる。 ○障害のある方との交流を通し、かかわりを大切に保育を進める。 ○絵本の読み聞かせや手話を取り入れた活動を設定し、心を育て、人のぬくもりが感じられる時間や機会を作る。	B	A
	園は、幼児の安全を確保するための取組を行っているか。	A	○日常的に防災・安全教育を進める。適時の安全面での指導を徹底する。園独自の訓練や小学校と連携した訓練、保護者参加の訓練、遠距離の避難訓練を進め、「自分の身は自分で守る」意識を、幼児なりに身に付けさせる。 ○不審者対応訓練・環境整備、外部機関との更なる連携など、園生活の安全を高める取組を進める。	B	A
	園は、幼児や保護者からの意見や要望を把握し、保育活動の点検や改善に役立っているか。	B	○一人一人を尊重し、受容的な態度で聞くことに徹する。日常の対話を大切にし、教職員からの声かけ要望の聞き取りを進める。地域訪問・個人面談を実施。各行事のアンケートを毎回実施する。実施後の集約を保護者に発信する。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	生活習慣については、園と家庭の協力により、子供に身に付けていけるものと考えため、今後も共に教育を進めていく必要がある。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
園の管理運営	園は、管理職の経営方針に基づいた、組織的な教育活動・園運営を行っているか。	B	○園の教育計画を基に、副園長を中心に進行管理に努め、若手と経験者が協力して、時期を得た計画立案、適正な実施を進めていく	B	A
	園は、幼児の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	○「元気によく遊ぶ子ども」を重点にし、年間を通して自然体験や生活体験を通して、自発的に活動することや、表現することを楽しむ意欲や態度を育てる。多様な遊びで生きる力の基礎を育み、将来の「自ら学び考え行動する力」につなげていく。 ○学校・園運営連絡協議会を開き、園での教育活動について、意見交換を行う。(紙面及び参集開催) ○保護者アンケート・自己評価を実施し、分析の上、園関係者による評価の機会をつくる。	A	A

様式 3

園には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児・保護者・教職員の感染症対策を工夫改善し、園内の環境づくりを行う。家庭にも協力を依頼し、定期的に意見を吸い上げながら協力体制をさらに強化する。</li> <li>○限られた自然環境を生かし、プランター、花壇の整備を行い、植物の育成、生物の飼育を工夫する。体験を豊かにし、命に触れる教育活動を行う。</li> <li>○園庭での熱中症予防策として、WBGT指数系を設置、日よけの整備を行う。備蓄品の管理及び活用を行い園内の防災のための整備を進め、家庭への意識向上を啓発する。</li> <li>○感染症予防、防止のための衛生面での取り組みを徹底する。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会の意見等	園での遊びが子供たちには何よりの経験であり、のびのびと過ごすことができている。感染症対策にも力を入れ、多少我慢の時期もあったが安心して子供を預けられる管理がされている。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	園は、教育方針や日常の保育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい生活様式を踏まえ、保護者参観の仕方を工夫し、各種行事等のもち方を工夫し、保育活動の発信を図る。</li> <li>○園便り・クラス便り・HP・スライドショー・ドキュメンテーション（掲示物）により、保育内容や幼児の成長を分かりやすく知らせる。</li> </ul>	A	A
	園は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の会との連携を進め、豊かな保育活動へつなげる。</li> <li>○幼保小中一貫教育を進め、情報交換を行う。行事のもち方を検討工夫する。</li> <li>○三寺小学校より専科教員を招き、出前授業を体験し、小学校への学びへとつなげる。</li> <li>○ゲストティーチャーを活用し、専門的な指導を踏まえ、保育の充実につなげる。</li> </ul>	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍であり、保護者が参観する難しさがある中、教職員が工夫し、ホームページ、スライドショーなどで子供の様子を伝えていることが保護者の理解につながっている。			

2 令和3年度学校評価のまとめ

・本物から学ぶ教育を進めるため、幼児に多くの体験の機会をつくり、独自性のある活動に園児も意欲的に取り組み、学びを得ることにつなげた。保護者の参観・参加が難しい中であるが、引き続き感染症対策を講じて機会を模索し続け、子供の姿を共有し理解し合う体制づくりと教育内容の工夫改善を行っていききたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三寺島幼稚園 園長 福井 みどり 公印